

平成25年度の鳥取県立博物館

1 総 論

平成11年に美術館整備計画が凍結されて以降、収蔵スペースの狭隘化など様々な問題が解決できない中、県議会や監査などにおいても早急な改善を求める声が高まっていた博物館にとって、開館から41年目となる平成25年は、大きな動きのあった年だった。

博物館の今後の在り方について、年度当初から館内で議論をするとともに、博物館協議会の意見も参考としながら検討を重ねた結果、次年度に改めてこれまでの取組を点検して問題点を整理する必要があるとして、平成26年度予算に関係経費を計上した。

また、山陰海岸学習館においても、山陰海岸ジオパークの拠点としての機能の充実が一層求められていたことから、その在り方について検討するため、有識者で構成する在り方策定委員会を5月に設置し、施設に求められる役割や問題点、対応策等について審議を重ね、翌年3月に提言としてまとめられ、今後、提言の実現に向けて取組を進めることとされた。

博物館の活動としては、例年どおり、貴重な資料の収集や保存、展示、館内外での様々な普及活動など、本県の学びの拠点としての機能の充実に努めた。

平成20年度から年間5本開催している企画展には、自然・人文・美術の各分野毎に年間を通じて実施した。特に、10月から約1か月間開催したファインバーグコレクション展は、江戸絵画の優れた作品を集めた展覧会として人気となり、会期中9千人を超える方が鑑賞された。

普及活動においては、新たに世界的に著名な日本の科学者や県内大学で先進的な研究等を行っている研究者による講演会（サイエンスレクチャー）を実施することとし、第1回の今年度はノーベル化学賞受賞の白川博士と鳥取大学の田辺教授の講演会を開催した。

国際交流の取組としては、11月にアルセーニエフ沿海地方国立博物館（ロシア）のシャライ館長が来県され、両館での教育普及活動の状況等についての意見交換を行ったほか、9月には当館職員が国立春川博物館をはじめとした韓国の博物館を視察し、今後の交流に向けた協議を行った。

山陰海岸学習館では、山陰海岸ジオパークの魅力を紹介する3D映像の第2弾を制作し、3月から上映した。前年度制作の第1弾と併せ2本立てで上映しており、来館者増につながることを期待している。また、資料の収蔵スペース等確保のため収蔵資料庫兼機材保管庫を整備するとともに、周辺の国道添い等6カ所に案内標識を設置するなど、環境整備にも取り組んだ。

(1) 組織

緊急雇用創出事業（商工労働部所管）として、山陰海岸学習館の3D上映看視員（非常勤職員）を1名雇用するとともに、緑豊かな自然課が本務で同館において外国人来館者の通訳等を行っていた外国人観光客誘致事業推進員（非常勤職員）に博物館（山陰海岸学習館）勤務を併任発令して同館運営の円滑化を図った。

(2) 資料の収集・調査研究

自然部門では、鳥取県では絶滅したとされていた蝶ウラナミジャノメが55年ぶりに発見され、その標本が寄贈されるなど、様々な貴重な標本を収集した。これらの標本や鳥取県の生物相に関する調査研究を実施し、その成果を当館の研究報告や学会誌などに論文として発表した。

人文部門では、近世・近代の鳥取県に係る古文書や民俗資料等の寄贈を受けた。また、鳥取県の歴史・民俗事象調査事業では「神社の棟札」の追跡調査を行い、その成果の一部を講演会と研究報告で公表した。

美術部門では、企画展に関する調査を行うとともに、鳥取県の美術に関する調査を継続して行い、

モーリス・ド・ヴラマンク《赤い屋根》、菅桶彦《舞楽胡蝶》、辻晋堂《人間（椅子に座っている人物）》などを新たに収集した。

(3) 展示

企画展5回（自然分野1回、人文分野1回、美術分野3回）を開催し、博物館全体（山陰海岸学習館を含む。）の事業に10万人を超す来館者があった。

〈企画展の概要〉

自然分野：約60種の現生霊長類剥製・骨格標本のほか、原始霊長類の実物化石や化石レプリカ、古人類の化石レプリカなど約180点を展示し、霊長類の進化や多様な姿・くらしぶりを紹介した。あわせて、鳥取市出身の世界的な霊長類学者である故・伊谷純一郎博士を紹介するコーナーを設け、伊谷博士ゆかりの品々の展示や業績紹介を行った。

人文分野：150年前（文久3年）に起きた「鳥取藩二十士事件」に着目し、その背景や与えた影響を幕末鳥取藩の動向から検証する展覧会を企画した。激動の時代に翻弄されながらも、幕末から明治にかけて信念を貫き、未来を信じて生きた鳥取ゆかりの「志士」たちの姿を、「因幡二十士」の活動を中心にしながら第一級資料約200点によって展示紹介した。

美術分野：今年度も三本の展覧会を実施した。アメリカ人によって収集された江戸絵画の充実したコレクションを紹介する「ファインバーグ・コレクション展」は光琳、若冲、北斎といった作家の名品を紹介し、大きな反響を呼んだ。シリーズ企画「鳥取の表現者」は「Variations 絵画の多様性」と題して若手四人の画家を紹介した。また没後50年を記念した「菅桶彦展」では、県出身の日本画家・菅桶彦の画業をかつてない規模で回顧し、関西からも多くの来場者があった。

山陰海岸学習館では、山陰海岸ジオパークの拠点施設としてリニューアルオープンして以降、展示解説・体験学習コーナーを担当する非常勤専門員を増員し、急増した来館者や小中学校等の団体利用に対応するとともに、野外観察会等の主催講座の充実にも取り組んだ。

(4) 教育普及

普及関係では、県民の生涯学習を支援するため、巡回展・移動博物館・出張美術教室などのアウトリーチ事業のほか、館内外で講演会・観察会・各種講座・ワークショップなどを開催した。

巡回展・移動博物館・出張美術教室は、県下13会場で実施し延べ3,801人が参加した。また、各種講座や講演会は、年間を通して106回開催し延べ3,899人の参加があった。

中でも美術分野の普及講座は、「毎週土曜はアートの日！」として、毎週土曜日に美術に関する事業を実施し、県民がアートにふれあう機会を充実させた。また、自然・人文・美術・山陰海岸学習館の各担当の講座を有機的に結び付けたコラボ企画も定着してきた。

広報に関しては、対象年代や広報手段について検討し、より効果的な広報を実施するとともに、教職員に対する広報の一環として、県内の小中高等学校及び特別支援学校の全教職員に対し、ニュースレター「鳥取県立博物館ニュース」を配布した。

(5) 来館者サービス

平成21年度から継続して、開館時間を次のとおり延長し、来館の機会を広げた。

〔4月1日～10月31日の特別展示の期間中の土曜日、日曜日及び国民の祝日〕
に関する法律に規定する休日は、午前9時～午後7時とする。

受付付近にトイレ・常設展示室入口の案内表示を増やし、来館者にとって分かりやすいものとした。

2 各課の概況

(1) 総務課

- ・県立博物館各所雨漏り補修工事を実施

(2) 学芸課

●自然担当

- ・企画展「サルとヒトーヒトってなんだろう?ー」
- ・田中昭彦植物標本整理事業（5か年）2年目
- ・三島寿雄昆虫標本整理事業（3か年）2年目
- ・ストロマトライト（岩石）の購入

●人文担当

- ・企画展「鳥取藩二十二士と明治維新」
- ・歴史・民俗常設展示室改善充実事業（紙本金字法華経2点のレプリカ製作）、「歴史の窓」コーナー、近現代展示、鳥取県歴史年表の移動、考古分野の展示替え
- ・鳥取県の歴史民俗事象調査事業（鳥取県内の神社の棟札継続調査）
- ・藩政資料整備事業（14か年）9年目
- ・収蔵資料保存・修復事業（保存処理1件：古郡家1号墳出土資料のうち、銅鏡、鉄鏃、鉄製工具、堅櫛など29点：刀剣研磨（伝説間半録旧蔵刀1振））
- ・「鳥取藩政資料」解説・研究事業（6か年）2年目

●普及担当

- ・学校教育支援事業の開催
- ・学校・市町村・教育機関と連携した普及事業の推進
- ・移動博物館、移動美術館、学芸員派遣等の募集及び調整
- ・各種広報活動の立案及び実施
- ・公式ホームページの管理運用
- ・収蔵資料データベースサーバーの管理運用
- ・ニュースレター「鳥取県立博物館ニュース」No.16、17の発行
- ・リーフレット「2014.4-2015.3 展覧会・イベントのご案内」の発行

●山陰海岸学習館

- ・展示解説等の来館者対応や小中学校等の団体利用の充実
- ・山陰海岸ジオパークの魅力を学ぶ野外観察会および自然講座の開催・充実
- ・山陰海岸ジオパークの魅力を伝える3D映像第2弾「神秘と生命（いのち）の物語」の制作および上映

(3) 美術振興課

- ・今年は、充実した内容の三つの企画展を開催した。まず、アメリカのコレクターによって収集された江戸絵画の優れたコレクションを紹介する「ファインバーグ・コレクション展 江戸絵画の奇跡」では、光琳、大雅、若冲などの名品を紹介した。京都以西では鳥取のみの巡回であったこともあり、県内外から多くの来場者があった。「Variations 絵画の多様性」では、本県出身で主に県外で活動してきた四人の若手画家、秦博志、安木洋平、山下律子、山田和之の作品を紹介し、好評を博した。没後50年を記念して開催された「菅橋彦展」は、鳥取に生まれ大阪で活躍した日本画家の画業を回顧する大規模な展覧会で、この作家についてはこれまで最大規模の展示となった。関西に巡回できなかったことは残念であるが、逆に関西からも多くの来場者があった。
- ・2階近代美術展示室では、「写真表現の先駆者たち 塩谷定好・植田正治・岩宮武二・杵島隆」、「座・ベスト展 すわる人の表現10景」、「もっと知りたい! 版画のこと」のほか、夏休みの子

供向け企画として「ランラン・らいん 線って不思議」の4本のテーマ展示を開催した。

- 1階美術展示室では、展示室を4つの区画に分けて、鳥取県を代表する江戸時代から現代までの作品を年間を通して紹介する「コレクション展Ⅰ～Ⅴ」を開催した。
- 年間を通じて毎週土曜日に美術普及活動を展開する「毎週土曜はアートの日！」を本年度も実施し、ワークショップ、アートセミナー、アートシアター、ギャラリートーク、企画展関連事業等を通して美術に関する教育普及に努めた。